

# 地域に根付くバリアフリーの森を目指して

—『ボランティアセンター・ラプリーフォレスト』—

名古屋から車や電車で約1時間半。三重県鈴鹿市にある加佐登神社は、古来より地元の人たちに親しまれてきた歴史ある神社です。隣接する「鎮守の森」の中にあるのは、全長800メートルにおよぶバリアフリーの手造りの遊歩道。開通までに12年もの歳月を費やし、今もなお遊歩道の整備を続けている「ボランティアセンター・ラプリーフォレスト」代表の前出健太郎さんにお話を伺いました。

## きっかけは森林ボランティア

大学院で米国の森林ボランティアについて研究し、実際に米国の国立公園で山岳道補修ボランティアなどを経験した前出さんは、その仕組みを日本でも構築できないかと考えていた。米国の国立公園や国有林の森林ボランティア制度をモデルにした、より実践的な活動を自ら実現して、将来、日本各地の森林保全活動に役立てられないかと模索していた時、知人から紹介されたのが加佐登神社にある「鎮守の森」だった。

神社の本殿の北西にある白鳥塚は、古事記や日本書紀にも書かれている大和の国(古代の日本国)を統一に導いた日本武尊(ヤマトタケルノミコト)の御陵として伝えられており、神社は日本武尊を御祭神として、彼が亡くなる時に持っていた笠と杖を祀っている。神社の土地は東京ドームおよそ2個分で、境内の西側は氏子の人たちによって手入れされているものの、東側は人がまったく入っていない鬱蒼とした森だ。

「昭和30年代まで、森の地面に落ちた木の枝は近所の家のかまどにくべられて、毎日きれいになっていたんです。それが高度成長期に入って各家庭に電気が引かれ、電化製品の発達と共に家庭で木を使わなくなり、森が荒れ始めました」とは加佐登神社の宮司である鈴木信彰さんの言葉。実際、広大な敷地を持つ日本各地の神社の中には、荒れ放題で手を付けたくても付けられない森林が数多く存在するそうだ。

そして、その東側の手付かずの森こそが、前出さんに委ねられたフィールドだった。

## 試行錯誤を重ねに重ねて

「鎮守の森」に車椅子の人でも散策できるバリアフリーの遊歩道を造ろうと、2002年に約20名の仲間と活動を開始した「ボランティアセンター・ラプリーフォレスト(以下ラプリーフォレスト)」だったが...。「数ヶ月の間にメンバーの脱退が相次いで、気付いたら自分一人になっていました」と前出さん。それでもたった一人で活動を続けたのは、絶対にやり遂げてみせ

るといふ強い信念があったから。「ほとんど意地になっていましたね。当時の自分は20代後半で若かったし、神聖な森に手を付けておいて途中で投げ出すんじゃないぞ、という周囲からのプレッシャーもありました」。

とはいえ、一から遊歩道を造るというのは大仕事。そんな前出さんの心強い協力者は、鈴木宮司をはじめ活動の趣旨を理解してくれる地元の方々、そして奥さんとその家族だった。ラプリーフォレストには資金も人手もない。おまけにボランティアがライフワークと化した前出さんの収入はゼロである。だから、兵庫県の前出さんの実家にあったパワーショベルを地元の土木業者の方にトレーラーで無償で運んでもらい、氏子有志の方々から土や木材を譲り受け、土嚢や柵やベンチはすべて手造り。自然の地形を活かしながら、水はけを良くし、道をなだらかにするために大量の土を盛るなど、日々失敗と成功を繰り返しながら、朝から晩までコツコツと気の遠くなるような作業が続いた。

「何せ自然が相手なので、台風や大雪の後に森に入ると、木が折れて倒れていたり、せっかく苦労して積み上げた土嚢が崩れていたりして、思ったように作業が進みませんでした。地盤の下の水脈を傷付け、造りかけの遊歩道が泥沼化したこともあります。でも、一番辛かったのは夏の暑さ」と前出さんは自然の厳しさを身を持って実感。しかし、作業を始めてから今日に至るまで大きな事故も起きず、大怪我をしなかったのは、場所が場所だけに神様に守られているからではないかと言う。

## 「そこにあるのが普通」という存在に

作業開始から12年が経った2014年10月、念願の遊歩道が開通し、ラプリーフォレストの活動に一つの大きな節目が訪れた。以前は木が多過ぎて鳥さへもほとんど棲みつかなかった森に、鳥たちが戻って来た。周囲は鳥獣保護区に指定されており、野生のキツネ、イタチ、野ウサギ、カワセミやフクロウ、キツツキの仲間のコゲラなどが暮らす森。この森をどう守り、地元の人々と共有していくか。そして、これまで活動を支えてくれ



ベンチも階段もすべて手造り



作業に参加する子どもたち(中心にいるのが前出さん)



た人たちにどのような恩返しができるのか。

「この森を観光客で賑わうパワースポットのような場所にはしたくない。まるでずっと昔からそこにあるように感じられる、ひっそりと地域にだけ込んだ遊歩道になればと願っています」。これまでの功績が地域に認められ、2011年に財団法人神道文化会から神道文化功労者表彰を受け、2016年には鈴鹿市社会福祉大会でボランティア功労者賞を授与された前出さんは今、午前中は鉄工所で働き、午後から遊歩道の整備に当たっている。そんな前出さんがとにかく嬉しいと感じる瞬間は、遊歩道を散策する子どもたちの姿を見た時。障害者でも健常者でも、誰にでも五感で楽しんでもらえる森林公園のような場所を目指している。「それにはここを利用する人々に、誰かが日頃からちゃんと手入れをしているという安心感を与えることが大事。

『あのおっちゃん、何かやってんで。業者の人かな?』と思われても構いません」と笑う。前出さん自身、今や2児の父。小学生の子どもたちは、作業を手伝ったり遊歩道で遊んだりするのが大好きなのだそう。

現在、遊歩道では月に一度、市内の子育て支援団体によるイベントが開催されるほか、近くの特別支援学校などの生徒たちの散歩コースとしても活用され始めた。また、前出さんが指導する少林寺拳法道場の子どもたちが参加する清掃活動などが行われている。前もって連絡しておけば、自然と触れ合う場所として団体での利用も可能だ。

名古屋からでも気軽にショートトリップが楽しめ、森林浴や散歩にはもってこいの場所。訪れる際は加佐登神社への参拝もお忘れなく。

## Information

ボランティアセンター・ラプリーフォレスト  
〒513-0826 三重県鈴鹿市住吉2丁目9-38  
TEL: 090-1898-4004(代表 前出健太郎)  
E-mail: l-forest@mecha.ne.jp  
ホームページ: <http://www.mecha.ne.jp/graywolf/>

加佐登神社(社務所)▶  
〒513-0003 三重県鈴鹿市加佐登町2010  
TEL/FAX: 059-378-0951

